

## 移動と再生産労働

— メキシコ、モンテレイメトロポリタン地区に住む  
中米出身家事労働者の事例から —

浅倉 寛子

家事サービス業は新しい現象ではない。女性の社会進出が高まり、先進国における人口の高齢化が急速に進む現代社会においては、家事サービスの需要は減少するどころか、多様な雇用形態をとりながら、今までの需要量を維持、もしくは、増大させてきていると言える。さらに、グローバル化が進み人口移動が飛躍的に加速した今日においては、家事サービス市場は自国民だけでなく国際移民の労働力によって満たされる。すると、雇用主と家事労働者の間には階級的差異のみならず、国籍や移民ステータス、文化の違いに基づく差異が構築されるため、両者の関係は再定義される。

本稿の目的は、2010年から2012年にかけてメキシコ、モンテレイメトロポリタン地区で行ったフィールドワークで得たデータをもとに、このメキシコ北東部に位置する大都市圏の家事サービス市場に参入する中米出身女性移住者の経験を、様々な差異が交差する権力関係が顕著になる雇用主と家事労働者の対人関係に焦点を当て、記述・考察することにある。

### 1 はじめに

家事サービスは新しい現象ではない。様々な先行研究が示しているように、人間の歴史を通して存在してきた。現在でも先住民が存在するラテンアメリカにおいては、何らかの民族集団に属する女性たちが、長いことこのサービスに従事してきた。この地域の様々な国における工業化に伴う加速的な都市化のプロセスは、都市部の一定の社会階層に属する世帯が再生産するにあたり、特殊な労働力の需要を促してきた。このプロセスに経済危機と農村部における急速な人口増加が追従し、都市部への特殊な女性移動者の流れが構築されてきた。これらのラテンアメリカ諸国における大都市圏への若い女性たちの移動は、農村部の家族の生存戦略であることが研究されているが<sup>1)</sup>、メキシコもその例外ではない。Goldsmith は、ジェンダー、年齢、出身世帯の構成間関係に基づき、メキシコシティにおける女性移住家事労働の移民プロセスの形態を考察している<sup>2)</sup>。一方

Howell は、オアハカ州の農村部から州都であるオアハカ市へ家事労働者として移住する主に先住民女性の事例を、雇用主と労働者の愛情関係に焦点を当て研究している<sup>3)</sup>。家事労働サービスの形態は、女性のライフサイクルを通して変化する。最初は、雇用主家族と寝食を共にする「住み込み」家事労働者として働き、結婚と同時に、仕事とプライベートを両立させるために、「通い」の労働形態を女性たちは模索する。現代社会においては、この家事労働サービス市場は、先住民女性たちだけでなく、度重なる経済危機の中で収入を求める非先住民女性（メスティソ）によっても占められる。さらに、グローバル化が進んだ昨今においては、この市場に他の国々から来る国際移住女性も参入してきている。

家事労働サービスは以上に述べたように、移動との関係で考察されることが多い。メキシコ国内での研究は、家事労働者として就労するために農村から都市部へ向かう若い女性の移動に焦点が挙げられてきたが<sup>4)</sup>、隣国のアメリカ合衆国に大量の移民を排出するこの国は、この特殊なジェンダー化された労働力の国際移動の研究にも貢献してきた<sup>5)</sup>。ここ30年における、通信・交通技術の加速的な発達、モノ、カネ、ヒト、情報、シンボルなど、様々な分野での様々なものの移動を容易にしてきた。国家間の格差によって、自国の外で生存手段を探そうとする人々の移動の流れが発生する。この国際移動の流れにジェンダーの視点を組み入れることで、男女が参加する生産労働の国際分業のみならず、ほぼ女性のみが参加する再生産労働の国際分業も存在することが提示されてきた<sup>6)</sup>。こうした研究の中では、家庭における性別役割分業は依然健在であり、「パートナー間の新たな平等主義」は神話に過ぎず、世帯構造と賃金労働の背後には家父長制が変化せず存在していることが指摘されている<sup>7)</sup>。先進国においては、専門職に就く女性が属する中間層世帯における「主婦」の不在を埋めるため、特殊な女性労働力の需要が発生する。また、老人や病人に対する公共介護サービスの不足により誰かがそれを補う必要が出てき、それは「生まれながらに介護の仕方を知っている」とみなされる女性の肩にかかってくる。家族内でその不足を補うことができなければ、国内外にかかわらず、外部に委託する必要がある。そのようにして、再生産労働の商品化<sup>8)</sup>・市場への外注化<sup>9)</sup>と共に、女性人口の特殊な流れと女性労働力の特殊な需要が構築されるのである。

「家事労働」という特殊な労働力の需要と、それに伴うジェンダー化された人の流れを創り出すプロセスが内包する、差異の構造を分析する研究も行われている。すなわち、他国で家事労働に従事する移住女性は、「三重の差別」—ジェンダー・エスニシティ・階級—を受ける、というものである<sup>10)</sup>。第一に、この女性労働力の特殊な需要は、女性に社

会的に指定された役割を補足することによって創り出される。そうして、その仕事の「本質」のため、より低い経済的価値を与えられ、労働市場における職種の差別化が起こる。第二に、先住民にせよ外国人にせよ、これらの女性労働者は、彼女らの出自のせいで、言語やテクノロジーに関する知識が不足していたり、正規滞在許可書を所有していなかったりするため、脆弱なポジションに置かれる。最後に、これらの女性は、専門職を持つにせよ単なる賃金労働者にせよ、自分で家事や主婦業を担うことのできない中間層または賃金と交換に家事の責任を他の女性と分業または委託する、より裕福な女性たちの仕事を肩代わりしているのである。こうしてみると、このプロセスは、男性側の家事への参加を促すのではなく、女性に再生産労働を完全に委託する性別役割分業に基づいた家長制イデオロギーの存続であることが顕著になる。

国際移動と家事労働に関する研究を地域別に見てみると、西洋資本主義諸国<sup>11)</sup>やアジアの振興工業諸国<sup>12)</sup>、中東の産油国<sup>13)</sup>における研究が多いことがわかる。メキシコでは、先住民女性が歴史的にこの労働市場を占有してきたことと、移民の送り出し国または中米移民のトランジット国と見なされてきたことから、外国人家事労働者の研究はそれほど盛んではない。その例外として挙げられるのが、チアパス州、タパチュラの町で家事労働者として働くグアテマラ移住女性の経験を考察した、Blanca Blanco Abellánの研究である<sup>14)</sup>。メキシコの南部国境地帯は、長年、隣国のグアテマラからの季節労働者や中米諸国で起きた内戦時の避難民を受け入れてきた経緯で、中米出身移民との関係が深い。また、形態は異なるとしても、他の地域と同様、労働市場においては、ジェンダー化された労働力が必要とされてきた。その一つである家事労働と国際移動を関連付けた研究は、メキシコの他の地域では不足していると考えられる。そういった意味で、米墨国境近くのメキシコ北東地域に位置するモンテレイメトロポリタン地区とトランジットと考えられてきた中米移民に焦点を当てた本研究は、この分野における地理的分布と家事労働者の出自に関する空白の一部を補足できると言える。

モンテレイメトロポリタン地区には、メキシコでもっとも裕福な市——サン・ペドロ・ガルサ・ガルシアがそのひとつ——があり、豪邸を維持するための家事労働力を常に必要としている。歴史的には、ワステカ地方出身の先住民の若い女性たちがこの労働市場を埋めてきた<sup>15)</sup>。例えば、2000年には、この地区における先住民言語を話す経済人口の42.28%——これらのうち93.46%が女性——が家事労働サービス部門に従事している<sup>16)</sup>。しかしながら現在では、アメリカ合衆国を目指したが何らかの理由で移動の中継地点であるモンテレイにとどまる中米移住女性たちも、先住民やメスティソの女性たちと共に

労働力を提供しながら、この労働市場に参入してきている。この現象が特殊なのは、この地域において中米移住女性たちがこの経済部門に参入できることにある。なぜなら、メキシコの他の地域では、中米移民の中でも一定の国籍を持つものは、この労働市場への参入を拒否されるからである。例えば、メキシコの南の国境地帯では、家事労働サービスはすべての中米移住女性に開かれているわけではない。特にホンジュラス出身女性に対しては、「夫泥棒」といったステレオタイプ化された社会イメージが存在するため、家事労働サービスの需要はない<sup>17)</sup>。グアテマラ出身女性が、従順で良い使用人であるといった社会表象のおかげで、容易に一般家庭で家事労働者として仕事を見つけることができる一方で、ホンジュラス出身女性の主な労働機会は、バーで給仕をしたりセックスワークに従事したりすることに限られてくる。メキシコ北東地域においては、中米出身者の数や定住の件数は比較的少ない。そのため、地域の人々の目につくことが少なく、かえってそのおかげで、メキシコ南部の国境地帯で見られるようなステレオタイプの構築が避けられてきたと言える。このようなメキシコ北東地域における中米移民の歴史の特殊性が、モンテレイという大都市圏における「住み込み」家事労働者の継続的需要や、裕福な世帯における多様化された家事労働力と共に、メキシコの他の地域とは異なる労働形態や社会的ダイナミクスを作り出してきたと言える。

家事労働サービスの条件は様々である。まず、どのような仕事をするかで変わってくる。掃除・洗濯・アイロンかけだけをするのと、それに加えて様々な年齢、身体的・精神的介護が必要な人間の世話をするのでは大きく異なる。ケアを含む家事労働は、第一に、家事労働者と介護をする者との間に愛情的紐帯を構築しがちであり、感情の移入を要求する。第二に、労働形態は労働条件、労働時間、仕事の種類、雇用主と労働者間の関係にも影響を及ぼす。第三に、一定の国籍、エスニシティ、階級に関する先入観やステレオタイプが存在しがちであるため、女性移住者が挿入する場所—物理的・文化的に異なる国や地域—は、家事労働者としての社会的ポジションを決定づける。最後に、雇用主の出自も家事労働者の扱いに影響を与え得る<sup>18)</sup>。さらに、家事労働は「親密なサービス」または「日常のサービス」とカテゴリー化される。すなわち、「現代において、西洋社会の日常における人々や家族の必要性を充足するための賃金労働」である<sup>19)</sup>。このことは、サービスを雇用する側とそれを提供する側との間の相互行為が濃密な「世帯」という親密な空間において実現される仕事を意味する。これらのすべての要因が一人一人の家事労働者の中で様々な形で組み合わせられ、唯一の経験を創り出す。それゆえ、本稿の目的は、メキシコ、モンテレイメトロポリタン地区における「世帯」というミク

的な空間の中で、家事労働者として働く中米移住女性の国籍や移民ステータスが、どのように濃密かつ複雑な相互関係の形態を創り出すことに作用しているか、を記述・考察することにある。

## 1.1 方法論

本研究の対象は、メキシコ、モンテレイメトロポリタン地区に居住する中米出身移住女性である。この人口の特殊性——時的また分散して居住するトランジット性の非正規移民——を考慮し、キーパーソンを通してインフォーマントにコンタクトを取ることにした。モンテレイには、主に先住民移住女性に家を解放している女性がいるが、中米出身女性も受け入れてきた。この女性は、移住女性が旅立った後も彼女たちと連絡を保つ努力をしており、最初に知り合った中米女性らは、この女性を通してだった。他のキーパーソンは、モンテレイメトロポリタン地区の他の移民シェルターの人たちである。

フィールドワークは2010年9月に開始し、2012年9月に終了した。その間、参与観察やインタビュー（録音有り、無し両方）を行った。観察や聞き取りはすべてフィールドノートに記述した。

ここに紹介するエスノグラフィーの目的は、メキシコ北東地域における中米移民の普遍的現象を提示することではなく、モンテレイメトロポリタン地区にたどり着き、家事労働サービス部門といった特定の労働市場に参入した中米移住女性の多様な経験を記述することにある。よって、「住み込み」の家事労働者として働いたことのある4人の女性の語りを考察することにする。対象者は、自国に4人の子供（12、15、18と23歳）を残して2007年にメキシコに渡った41歳のホンジュラス出身女性、2009年に3人の子供（12、14、16歳）を母親に預け元夫の暴力から逃げてきたグアテマラ出身女性、アメリカンドリームを探して3人の子供（7、8、11歳）を母親に託して出発したが、何らかの事情で2004年からメキシコに滞在している35歳のホンジュラス出身女性、その妹で3人の子供（8、10、12歳）により良い生活をさせるため、モンテレイに2011年2月に到着した33歳のホンジュラス出身女性である。これらの4人の女性の多様な経験を通して、「家」という同じ空間を共有する異なる個人の間にも創出される、複雑な相互行為のダイナミクスを考察したいと思う。



## 2 移住女性と家事労働

労働市場に参入する移住女性、特に、家事サービス部門に参入する女性たちは、移動の流れの中で新たなルートを描き、そうすることによって、彼女ら自身と自国のために「サバイバルサーキット」を形成する<sup>20)</sup>。様々な国々におけるジェンダー格差が、この新しい女性の移動の流れを構築すると言える。女性はマクロ構造の経済的効力（グローバルなスケールにおける家事労働者の需要）のみによって移動するのではなく、出身国におけるジェンダーに基づく労働市場の分割化、家族内における不平等な分業、そして、ドメスティック・バイオレンスなど、他の様々な動機によっても移動するのである<sup>21)</sup>。

グローバリゼーションにより、一地域の生産活動が、一眼的視野からのみでは理解できなくなっている。同様に、再生産活動もグローバル経済に位置付けて考察する必要がある。すなわち、賃金労働における女性の加速的参入の文脈の中で、グローバル経済がどのように「再生産労働の世界分業<sup>22)</sup>」と名付けられるジェンダー格差を創出する様々なシステムを相互に繋ぎあげるのに貢献しているか、を論じる必要が出てくる。この再生産労働の世界分業は、二国間における3つのグループに属する女性たちの間で行われるケアの国際移転に集約される。つまり、富める国の中間層に属する女性たち、家事労働サービスに従事する移住女性たち、そして移住女性たちの出身地で彼女らの再生産労働を引き受ける最も貧しい女性たち、の3つのグループである。富める国の中間層女性たちの労働市場への参入は、世帯全体の収入の増加につながるが、家事の負担は減らず、一般的に男性と分担されることはない<sup>23)</sup>。西洋諸国の中には、男性が育児のために辞職または就労時間を減らすという国もあるように、世界中で性別役割分業が柔軟化されてきているが、なくなったとは言えない<sup>24)</sup>。それゆえ、この役割を遂行するため、他の女性のサービスを探すことになる。このようにして、中間層に属する女性たちの再生産労働が、より社会階層の低い女性たちに転移されるのである。序章で述べたように、ラテンアメリカでは昔から農村部出身家族—メキシコでは大半が先住民出身—の生存戦略の一つとして、娘たちが大都市へ家事労働者として送られてきた。そのようにして、都市世帯の再生産に必要な労働力の需要に応じてきたのである。現代においては、この賃金再生産労働は国内であれ海外であれ、移住女性によって担われている。そのようにして、社会階層に加え、人種またはエスニシティと国籍といった要素が入り込む。言い方を変えれば、女性移住家事労働者は一般的に「有色人」であり、この事実は、現代の国際スケールに及ぶ「人種的分業<sup>25)</sup>」または労働市場の「民族による階層の形成<sup>26)</sup>」、

種化<sup>27)</sup>」と呼ばれている。

先進国と発展途上国の間に位置するメキシコは、興味深いパノラマを提示している。この国に歴史的に使用人が存在してきたことは、様々な研究で示されてきた<sup>28)</sup>。家事労働者として働き、家計に貢献しようと、若い女性たちが今でも先住民言語を話す農村部から国内の大都市へ赴く。「住み込み」の家事労働者の需要は減少したかもしれないが、「通い」の家事労働者は今でも需要がある<sup>29)</sup>。

メキシコでは、先住民や貧しいメスティソ女性たちによる十分な労働力の供給があったため、外国人家事労働者の特別な需要は今までなかった。しかしながら、米墨国境地帯の警備が厳重になり、越境することが非常に困難にある現在、アメリカ合衆国へ向かう中米移民の中継地であったこの国が、最終目的地へ変わりつつある<sup>30)</sup>。メキシコに定住することを決めた中米女性の中には、この国の様々な地点で仕事を得ている者もいる。これらの女性たちは、長時間、低賃金、社会保障の不在といった家事労働サービスのよりに、ジェンダーによる職種の分割化のため、男性労働者よりも経済的・社会的条件が悪い労働部門に入ることを余儀なくされる。だが、「住み込み」の家事労働者として働くことは、ある意味で、新しい場所や都市生活を知る上で、最も安全な方法であることはよく知られている<sup>31)</sup>。モンテレイメトロポリタン地区は、こういった女性労働を常に必要とする大都市圏の一つである。Chavarríaの研究が示すように、サン・ペドロ・ガルサ・ガルシア市に住むような裕福な世帯は、一人ではなく数人の家事労働者を必要とする<sup>32)</sup>。ただし、以前はメキシコ各地から来る先住民の若い女性たちで占められていたこの職業は、現在では、現地人と外国人との間で共有され始めている。

移住家事労働者が外国で他の女性のために再生産労働をする場合、同時に彼女たちの出身国で他の女性たちがその再生産労働を担っている。そのようにして、ケアのグローバル連鎖が構築されるのである<sup>33)</sup>。一般的に、移住女性の再生産労働を担うのは彼女たちの家族 — 母親、姉妹、長女、叔母、姪など — であるが、時にはわずかな支払いで他の女性のサービスを受けることもある。例えば、フィリピン移住女性は、一般的に子供を自国に残し、より賃金の高い職を得るために海外へ行くことのできない、より貧しい階層の女性たちを雇う<sup>34)</sup>。中米移住女性の場合、親戚の女性の誰かが家事と、送金と母親の帰りを待つ出身地に残る子供の育児を担う。

この3つのグループの女性たちの間で行われる転移の連鎖は、世界経済における異なるグループに属する女性たちのジェンダーのしがらみ — 再生産労働を行う責任 — を拒絶する過程として解釈することができる。専門職を持つ女性たち、または、中間・上

部階層に属する女性たちが「他の」女性を雇用する場合、前者は家事だけではなく、社会的に下位に位置付けられる意味を付与された仕事から一たとえ部分的にであれ一解放される。そのようにして、上位に位置する女性は下位に位置する女性との間に一線を引くことができるのである<sup>35)</sup>。このようにして、「家事は女性の仕事」という考えを変えずに、Andersonの言う、「ダーティワーク」(日常の家事・育児を意味する)と「より気持ちの良い」仕事との間に一線を引くことができる<sup>36)</sup>。女性移住家事労働者が出身地での日常的な再生産労働を担うために「他の」女性を雇用する場合も同様のことが起きる。ただし、この場合、「ダーティワーク」を回避することはできないが、出身地での生活レベルや社会的レベルを上げるための収入を得ることができる。この枠組みの中では、社会的・経済的コンテクストにかかわらず、女性たちは逆説的に、家事は女性の役割という、家父長制イデオロギーを再生産することに貢献している<sup>37)</sup>。

この生産・再生産の再編成の過程において、家事労働者として働く移住女性たちは異なるスケールの権力の網の中に組み込まれていく。この現象も国際労働移民の一つであるため、グローバルレベルにおける出身地と移動先の政治の影響を忘れてはならない<sup>38)</sup>。彼女たちの移動は、両国の具体的な移民政策によって妨げられたり促進されたりすることが多い。発展途上国の中には、男性の労働機会の減少、伝統的な商業機会の停滞、政府の公共事業の減少といった、現在の社会・経済条件の結果として、移民を促進する政策を取る国もある。女性移住者による送金は外資の重要な獲得資源であり、それゆえ移民の送り出しが発展途上国における最も一般的な生活維持の仕方になってきている。受け入れ国の一定の移民政策は、労働条件の悪い「民族化された労働の巣<sup>39)</sup>」を通して、自国民と外国人の間に労働市場の格差構造を生産・再生産しながら、女性特有と見なされる一定の労働部門への女性移民を促進する。

個人的レベルにおいては、女性移住家事労働者は移動先で新たな社会関係を経験する。労働力を提供しその見返りに賃金を受け取ることで、家庭と呼ばれるプライベートな空間は彼女らにとって公的な労働空間となる。彼女らは「家」とは別、と考えられている仕事の世界にいる。しかしながら、移住女性たちが担う仕事は、自分の家で行う仕事の延長と見なされる。労働契約が仲介業者を通して文書と署名で交わされることもあるが、メキシコでそうであるように、多くの場合、労働に関する合意は口頭で個人間で行われる。というのも、シンガポール政府のように、個人契約という理由で、外国人家事労働者の雇用を法や労働契約の枠組みの外に維持し続けている国が多いからである<sup>40)</sup>。そのようにして、家事サービス部門では、労働者の労働的・社会的脆弱性を増大させながら、



「偶発的」で「規制」が少ないダイナミクスを伴う関係が、雇用者と労働者の間に構築される<sup>41)</sup>。

女性移住家事労働者たちは、雇用主と労働条件を交渉するために様々な戦略を用いる。この交渉では、家事という労働の性質上愛情という要素が入り込んでくるため、雇用主との関係を完全に労働関係として保つことができなくなり、関係がより複雑になる。これについては次章で述べることにする。

## 2.1 賃金家事労働の本質

再生産労働は、家の掃除や食事の用意、洗濯、アイロンかけ、買い物、幼児・若者・大人、老人や病人など特別な介護を要する者の身体的・感情的・社会的必要性を充足させるといった、生産労働力を維持するために必要な様々な仕事を含む。再生産労働は終わりがなく、その上目に見えない労働である。再生産労働の本質の一つに、仕事として見なされない「何か」と関係していることが挙げられる。女性家事労働者の職は、プライベートな家庭の中で行われるがゆえに、仕事と見なされないことが多い<sup>42)</sup>。この特殊な空間が、「プライベート」な生活を形成する活動との回避できない親密性を構築する<sup>43)</sup>。その上、家事労働者が行う仕事は、伝統的に女性が「愛があるから」行うものと考えられてきた活動と関連付けられる<sup>44)</sup>。中国や他のアジアの国のような社会では、女性にとって、老人や病人の介護は文化的期待に応えることを意味するため、彼女たちにとっては時には大きな重荷にもなる<sup>45)</sup>。

家事労働はひどくスティグマ化されていることを示す研究が数多くある<sup>46)</sup>。例えば、1970年代の香港は、深刻な家事労働者不足の問題に直面していた。しかし、家事労働特有のスティグマと時間的拘束が強く自由が無いといった印象があまりにも強かったため、「住み込み」の家事労働が高い給料や住居手当を提供しても、若い女性たちはこの仕事に就きたがらなかった<sup>47)</sup>。

家事労働が「本来の」仕事と区別されるもう一つの性質に、その個人的要素、特に子供や老人・病人の日常的ケアが含まれる時に帯びてくる性質が挙げられる。この仕事は感情移入を必要とするため、雇用主は家族を本当に「ケア」—つまり、愛情を注いでくれる人—を雇用しようとする。そういった家事労働の個人的性格的は、基準・効率・生産性を追求する工業雇用モデルとは対照的と言える<sup>48)</sup>。

家事労働に顕著な個人的関係は、労働者とケアされる者との間だけに成り立つのではなく、多くの場合女性である雇用主との間にも構築される。その関係は、特別な親密性

に特徴付けられ<sup>49)</sup>、他の社会関係同様、雇用主と労働者の間にも、両者の利害や期待を折り合わせるための衝突や交渉が起こる。家事労働者の行動や時間に関する雇用主側の行き過ぎたコントロールは、両者に強い緊張関係を引き起こし<sup>50)</sup>、家事労働者を下位に位置づけるような差別的な扱いや態度は両者の衝突を引き起こす<sup>51)</sup>。このように、家事労働の本来の性質が、雇用する者と雇用される者の間に濃密な相互行為を必要づけるため、資本主義に定義される仕事の非人間性とは相容れない職だと言える。

### 3 メキシコ北東地域における中米移民

メキシコ北東部は、様々な意味で、アメリカ合衆国と国境を接する他の地域とは異なる光景を提示している。その一つに、年々数を増す中米移民と先住民移民の存在が挙げられる<sup>52)</sup>。

1970年代以前の中米移民は主に地域間で行われていた。つまり、人口移動は中米地域内のある国から別の国へと行われた。しかし現在では、中米移民の目はアメリカ合衆国へ向けられている<sup>53)</sup>。こうした新しい国際移動のパターンは19世紀後半からのアメリカ合衆国のメキシコ、中米、カリブ諸国への戦略的経済介入に起源がある<sup>54)</sup>。形態や歴史的時代に違いはあっても、このアメリカ合衆国と中米諸国の関係は、西洋諸国と元植民地であったラテンアメリカ諸国とのポスト植民地関係と相似している部分がある<sup>55)</sup>。アメリカ合衆国への中米移民の合法的入国者の数は年々数を増してきており、最も増加率が高かったのは、2,358,203人が入国した1980年から2000年である<sup>56)</sup>。

この中米移民がこれほど増大したのには、色々な理由が考えられる。第一に、ニカラグアやエルサルバドル、グアテマラで起こったこの地域における内戦と国内暴力が挙げられる。それゆえ、1990年代までは、安全を求める大量の移民がこの地域から排出された。第二に、構造改革と調整をあげるマクロ経済のネオリベラル政策が国内経済に大きく影響を与え、失業と貧困が深刻になった。そこで労働移民が出てきたのである。平和を求めて越境していた人々が、今度は食を求めて自国を出るようになった。最後に、ハリケーンミッチ（1998）やハリケーンスタン（2005）が中米地域の国々に壊滅的な被害を与えた。

中米移民の大半は陸路を通る。そのため、アメリカ合衆国へ入国する大部分の中米移民が米墨国境を渡ると推測される<sup>57)</sup>。その上、メキシコは、言語や文化的アイデンティティ、経済的・家族的関係を共有するため、中米移民特にグアテマラ人の主な移民先を

形成してきた<sup>58)</sup>。

メキシコをトランジットとして通過するための査証の取得は、最終目的地の査証もしくは入国許可の有無に左右されるため、アメリカ合衆国の厳しい移民政策はメキシコ領土における中米移民の増加に直接影響を与えてきた<sup>59)</sup>。例えば、メキシコにおける中米移民の増加は、メキシコ移民局によるこの人口の保護件数に反映される。2001年に144,640件であったのが、2005年には240,269件に増えており、そのうち、100,948件がグアテマラ人、78,326件がホンジュラス人、そして78,326件がエルサルバドル人となっている<sup>60)</sup>。北部の国境越えが年々困難になってきていること、メキシコ国内における犯罪組織による治安の悪化が要因し、2010年にはメキシコの移民局に保護された中米移民の件数は61,022人に減少した<sup>61)</sup>。しかしながら、これは必ずしも中米諸国から国外への人口移動が減少方向にあることを意味するものではなく、むしろ、ヨーロッパのような他の国々へ移民ルートを多様化させていると解釈した方が無難と言える。

目的地へ着くまでの長い道のりにおいて、メキシコ北東部にはアメリカ合衆国への国境越えの様々な地点があるため、中米移民が好む陸路の一つとなっている<sup>62)</sup>。以前は、メキシコ北西部が中米移民のアメリカ合衆国へ入国するための主なルートだった<sup>63)</sup>。タバチュラ（チアパス州）から陸路でメキシコに入国するか空路でメキシコ連邦区に入り、ティファナ（バハ・カリフォルニア州）へ向かい、そこから国境を越えてアメリカ合衆国のカリフォルニア州に行くというルートをたどった。しかし、国境地帯のコントロールや警備が厳重になり、中米移民は新しいルートを模索する必要があった。そうした文脈の中で、コアウイラ州、ヌエボレオン州、タマウリパス州は、「アメリカンドリーム」を手に入れるための越境において、重要性を増してきたと言える<sup>64)</sup>。確かに、メキシコ北東地域は中米移民の増加が確認されている。

ここ数十年、女性の国際移動は疑いなく増加している。20世紀後半の40年間には、女性移民の数は1960年に全体の47%、2000年に49%と、ほぼ男性移民と同じになった。中米地域もこの移民の女性化の傾向から逃れることはできない。しかしながら、中米移民の男女比の変化を正確に割り出す、性別ごとのデータは残念ながら存在しない<sup>65)</sup>。メキシコ移民局は2008年になってやっと、外国人の入国者数を性別ごとに発表し始めたが、国別の変数はまだ挿入されていない。これは、移民研究において男性中心的な考えが優先し、女性は移動において少数しか占めていない、移動しても男性の同伴者として行う、という神話が存在してきたことに起因する。その結果、女性が不可視化されてきたのである。だが現在では、女性の移動の特殊性に焦点を当てる研究が増えてきている。

モンテレイに移民シェルターが4件あるのは偶然ではない<sup>66)</sup>。そのうちの一件は、先住民女性らを受け入れるために開設されたが、昨今では中米女性たちも受け入れている。これらの中米女性たちの中には、モンテレイメトロポリタン地区で家事労働者として斡旋してもらったり、アメリカ合衆国への国境越えを助けてもらったりした者もいる。Durinの著書のタイトルにもあるように、モンテレイには女性の仕事がある(*En Monterrey hay trabajo para mujeres*)。この土地における女性労働力の特殊な需要は先住民女性の新しい国内移動の流れを形成してきた。その多くは若い女性で、家計を「助ける」ため、もしくは、学業を続け自己啓発を行うために出身地を出てくる。この流れに主にグアテマラやホンジュラス出身の中米女性が挿入してきている。この人口の特殊な性質上 — 主に非正規滞在の移住女性 — 現地の者が就きたくない、労働条件が劣悪な家事サービス部門にこれらの中米女性たちが職を得る機会を見出すのは容易と言える。

#### 4 モンテレイメトロポリタン地区で家事労働者として働く 中米移住女性の経験

##### 4.1 労働市場への参入と労働条件

移動先での労働市場への参入の仕方は、移住者が持つネットワークと受け入れ社会の独自のコンテクストによって決定づけられることが多い。メキシコ北東地域にたどり着く中米移住女性の場合、仕事を見つけるために得られる数少ない援助は、到着してから数日間滞在する移民シェルターの職員から来ることが多い。中米移民同士のネットワークはもちろんのこと、女性移住者のネットワークがまだ構築されていないこうした状況の中、移民先で最初に得られるコンタクトは仕事を見つけるにあたって重要なポイントとなる。インタビューをした全ての女性が、先住民を主に受け入れている移民シェルターを運営する女性を通して最初の職を得ている。

女性のネットワークを通してこの大都市圏に来るメキシコ先住民女性と違って<sup>67)</sup>、利用できるネットワークが限られている中米移住女性の場合、得られる職のオプションも限られてくる<sup>68)</sup>。移民シェルターを運営する女性を通して最初の職を得た4人の女性たちは全員、「住み込み」の家事労働者として雇われているが、これは決して偶然ではない。先行研究にも示されているように、この種の家事サービスは、移動先の労働市場において仕事を得るための第一歩であると同時に、長時間、低賃金、自由の束縛といった特殊な労働条件を必要とするため、大半の女性にとっては最後のオプションとして見なされ

る。

「住み込み」家事サービスの最初の特徴としてあげられるのが、ほぼ24時間拘束の勤務体制である。この厳しい労働条件は、こういった環境で働いたことのない中米移住女性を心身ともに不安定にする。中には家事労働者として出身地で働いたことがある者もいるが、どの場合も、出勤時間、休憩時間、労働終了時間といった基本的な勤務規則はあった。しかしながら、モンテレイメトロポリタン地区では、効率性が優先され、一定の仕事が終わると別の仕事を自分で探すか、与えられることになる。それゆえ、仕事が早ければ早いほど多くの仕事が課せられるため、「効率が良い」ことが家事労働者にとって常に有利であるとは言えない。女性のための移民シェルターの運営者が言うように、モンテレイのコンテクストでは、「仕事の価値」が最優先される。しかし、この「価値」の解釈は雇用主側と労働者側では異なる。労働者にとっては、労働の価値は与えられた仕事を素早く正確に行うことにあり、その義務を一定の時間内に果たせば、残りの時間は自分のものになる。休憩をとっても良ければ、個人的なことをするために使っても良い、という解釈である。しかしながら、モンテレイにおいては、家事労働の価値はどれだけこのサービスへの投資を取り返せるか、すなわち、家事労働者に仕事をさせればさせるほど投資（家事労働者の身体維持のための食事や住環境）と支出（給料）を有効活用できる、という意味で解釈される。それゆえ、家事労働者に与えられる仕事は無限にあるのである。グアテマラ出身女性がこの状況を次のように述べている。

「一軒家で、3人の使用人がいて、各自自分の仕事があった。私の仕事は、キッチンだったけれど、ランドリーを任せられ、そのあとは、（雇用主たちが）クリスマス飾りの商売を始めたものだから、昼夜なく働き出して、私は夕食を出すために彼らを待っていなければならなかった。夕食、朝食、昼食を用意するために、彼らの帰宅時間をいつも気にしていなければならなかった。でも、ただ待っているだけではダメで、何かしていなければならなかった。もう一人の使用人と一緒にクッションに詰め物をしたり、他のことをしたり。夜中の1時や時には2時まで働き詰めだったこともある。」

ライフサイクル<sup>69)</sup>やパートナーの有無、独立願望、対人関係の問題といった要素と共に、「住み込み」の家事労働の奴隷的性質のため、移住女性たちが同じ労働市場の中で、別の労働形態 — 「通い」 — を探すことはよく知られている。同じグアテマラ出身女



性は次のように続けている。

「前は住み込みで働いていたけれど、パートナーができたなら一人でのとは違ってくる。私が住み込みで働いている間、彼は一人で家にいる。誰が彼の世話をするの？ そうしたら、彼が、私ที่บ้านにいないのを寂しがって、（私が住み込みで働くのを）嫌がった。そうしているうちに私が病気になるって仕事を辞め、セニョーラシルビアが今働いている家を世話してくれた。」

ナラティブに見られるように、グアテマラ出身女性の場合、病気と共にパートナーの要請とジェンダー役割 —女性に男性の世話をすべき— が、前の職場の奴隷なみの労働条件から抜け出し、プライベートな時間と空間を探す決定要因となった。「住み込み」の労働形態から抜け出すことは、女性にとって公私ともに自立を得ることを意味する。

しかしながら、家事労働者が雇用主側から給与や補助面で良い待遇を受けている場合、大半の女性が望む「住み込み」から「通い」への移行が遅れることがある。例えば、モンテレイに2004年に着いたホンジュラス出身女性は、2011年にインタビューを行った時、まだ「住み込み」家事労働者として働いていた。仕事面や個人面における雇用主との交渉が非常に複雑ではあっても、長年にわたって雇用主との間に築き上げた信頼関係があるため、彼女はこの仕事を維持する価値があると考えている。第一に、他の「通い」の家事労働者と比較しても、彼女の給料はずっと良い。当時、8時間労働で他の女性たちの日給が200ペソ（約12.5ドル）から250ペソ（約15.6ドル）であったのに対し、彼女は日給300ペソ（約19ドル弱）をもらっており、時間外手当も支給されていた<sup>70)</sup>。第二に、雇用主のおかげで正規滞在許可書を申請することができ、ホンジュラスに残してきた子供たちに会うため、年に2週間の休暇も与えられている。第三に、職場と同じ敷地内であっても、雇用主とは別の家に住んでいる。それは時間に関係なく何か「お願い」してくる人がいない、自分だけの空間を確保していることを意味する。

以上のように、家事労働の就労形態の移行には様々な要素が関わっており、各女性が各々確立する条件や優先順位に応じて決定すると言える。

#### 4.2 雇用主と家事労働者との間に生じる複雑な人間関係

賃金家事労働が行われる「家庭」という特殊な空間の性質上、その空間を共有する人々の相互行為はより濃密になり、時には争いが生じることもある。雇用主、特に女性の雇

用主と家事労働者の関係を考察した研究は多くあるが<sup>71)</sup>、この空間における二人以上の相互行為の組み合わせは、モンテレイメトロポリタン地区における家事サービスの性質を考慮した場合、より複雑になる。

前述したグアテマラ出身女性のナラティブからも推測できるように、モンテレイメトロポリタン地区の経済的に裕福な人口が集中する地区においては、すべての再生産活動をカバーするため、何人もの使用人を雇用することは珍しくない。そういった家庭においては、家事労働者と雇用主、家事労働者と彼女らがケアをする人（子供、老人、病人）の間に構築される関係の他に、家事労働者同士の関係も考慮しなければならない。姉の誘いでモンテレイに移住したホンジュラス出身女性のケースのように家事労働者同士折り合いが良い場合は、仕事を分担できるし、悩みや孤独、喜びなどを共有したりもできるので、他の家事労働者の存在は公私共々強みになる。

「いつもすることがたくさんあるから（退屈は）しない。朝7時に起きて、7時10分か20分にはキッチンでセニョールとセニョーラ、子供たちの朝食を用意している。彼らが出て行ったら、後片付けをして、その辺を掃除する。掃除機をかけて、アイロンかけは私の仕事だから、アイロンもかける。月・水・金曜日はアイロンかけの日。今度入ってきたもう一人の子に迷惑をかけないように、頑張って仕事をしないと。その子が「あなたはアイロンかけていらっしやい」って言ってくれる。午後4時半か5時頃には仕事が終わって二人とも落ち着いている。部屋に戻ってテレビを見たり、ジュースを飲んだりする。8時ちょうどに急いでキッチンへ行って、セニョールとセニョーラの夕食を作って、9時か10時頃にはまた部屋に戻っている。」

しかしながら、使用人同士の間に外国人嫌いや差別から来るライバル心や嫉妬がある場合、労働環境は辞職を考えるほど耐え難いものになる。前述したグアテマラ出身女性は、雇用主の信頼を急速に獲得していった彼女に自分のポジションを取られるのではないかと恐れたベテラン家事労働者から、盗難やしてもいない長距離電話の濡れ衣を着せられ、辞職する羽目になった。グアテマラ女性は出身地にいる母親と子供たちへの送金と雇用主の変更によって生じる移民局での手続き費用を捻出するため、次の職が見つかるまで仕事を辞めるのを待たなければならなかった。滞在許可と就労許可を持たない移住者にとっては、この待ち時間は途方もなく長く感じられる。滞在許可書を所有しているこのグアテマラ出身女性でさえ、険悪な労働環境の中で過ごした3ヶ月間は、耐えら

れないほど長く感じたという。このミクロな社会空間において、中米移住労働者は、他者そして多くの場合非正規滞在者という性質のため、非常に脆弱な状況に立たされる。外国人嫌いや差別的な実践がこの空間で再生産されるのである。

雇用主と家事労働者間の衝突は、雇用者側の労働者に対する越権行為や「屈辱的」行為と関連していることが多い。この二つの行為はある問題を共有している。それは、どちらも家事労働者を「非人間化」するのである。食事や排泄、睡眠といった人間として必要不可欠な活動のための時間を考慮しない長時間労働は、家事労働者側からすれば彼女たちの人間性への敬意の欠如として受け止められる。家事労働者が食事をしたかを家族の誰も気につけないのは普通のことである。また、雇用主が家事労働者に食事を与える場合、家族の食べ終わった後で残り物を与えることもしばしばである。仕事の負担よりもこの種の扱いに家事労働者は憤りを感じる。あるホンジュラス出身女性はこうした待遇を次のように表現している。

「彼らの食事は自分が普段食べているものとはとても違うので、（セニョーラの家では）ほとんど食事をしない。その上、セニョーラは私に「ここにパウラとクラウディオの分を置いておくから」とは言うけれど、チャチャ（使用人）が食事をするかどうかなど気につけない。夜になると彼女が食事の用意をして、「ここに子供たちの食事を置いておくから」と言う。口癖は「ここに子供たちの分を置いておくから」。チャチャが食事をしようかしまいかなど（彼女にとっては）どうでもいい。「私の職場は」そういうところ。彼らが食事をする、でも（使用人には）、「こっちへ来て食べなさい、もう食べた？ 食べ終わった？ 食事の用意をしたら？」など言わない。チャチャはロボットで、食事もしなければトイレにもいかない、何も感じない（と思っている）。」

家事労働者の非人間化は、雇用主側が家事労働者側にも家族が存在することに気づいていないことも関係している。中米移住女性が正規滞在許可書を取りたがるのは、1年に一度でもいいから、メキシコ移民局を恐れず、また、問題なく子供たちに会いに行きたいという願いと大きく関係している。だが、移住女性たちのこの願望は雇用主に利用されることが多い。雇用主は正規滞在許可書を申請する援助をすることを約束し、そうすることで劣悪な労働条件を強制することもある。雇用主は、家事労働者が査証の申請手続きに雇用主の雇用証明書が必要なため、容易く仕事をやめないことを知っているか

らである。その上、雇用主の中には、あからさまに家事労働者には中米移住女性の方がいいと言う者もいる。それは、国内移住者とは異なり、中米女性は簡単に「自分の家」に帰ることができないからである。それゆえ、雇用主が正規滞在許可書の申請手続きの援助をする前に長期間の研修期間を設けたり、査証の延長手続きに必要な雇用証明書を出すことを拒否したりすることがある。そうした場合、両者の間には非常に激しい衝突が起こる。

中米女性移住家事労働者が経験する雇用主との衝突は、必ずしもおっぴらで直接的なものであるとは限らない。しかし、彼女たちが外国人であること、そして多くは非正規滞在者であることが、彼女たちを他の家事労働者と比較して脆弱な状況に位置付けていることは明白である。

#### 4.3 心の中のジレンマ —好意, 愛情, 義務—

家事サービスには、同空間、口頭での契約、近距離での日常的な相互行為など、労働関係における親密性を増す多くの要素が含まれている。この親密性が両者間の協議の上の合意と「好意」の境界を曖昧にするのである。メキシコでは、家事サービスを雇うにあたり、正式な労働契約を結ぶ必要がない。契約は雇用主と労働者の間で、口頭で行われることが大半である。雇用時に一定の労働条件における合意がなされ、労働者が一定の規則を遵守する代わりに、雇用主側が労働者に対して幾つかの約束をする場合が多い。中米移住女性にとって極めて重要なものとして、正規滞在許可書を獲得するための援助と出身地に残してきた子供たちに会いに行くことの許可が挙げられる。女性移住家事労働者たちにとってこれらの条件は非常に重要であるため、雇用主側がこの約束を守ると、単なる契約事項の遂行と捉える代わりに、雇用主側の労働者に対する多大な「好意」として受け取られることがある。雇用主にとって「チャチャはロボット」だと語ったホンジュラス出身女性自身、次のように語っている。

「2006年の初めに（この家で）働き始めたが、（中略）セニョーラが「ずっと居たいか？仕事は気に入ったか？残るか？」などと聞いてきた。だから、「はい」と答えた。6ヶ月経ったところで、（セニョーラが正規滞在許可書申請のための）書類に関して援助してくれた。家に帰れるように（雇用主が）書類を揃えてくれたから、その年のうちに—2月に働き始めて12月18日に—家に帰ることができた。子供たちに会いに行くことが、私とその家で働き始めた最初の年のクリスマスプレゼントだっ

た。」

この女性が「プレゼント」と思っているものは、本来は雇用主が雇用時に彼女に対して約束したものだだったが、労働者側の感謝の念があまりにも強いため、雇用主の「好意」として受け取られる。これらの「好意」は、仕事でにせよ忠誠心でにせよ、返さなければならぬ「義務」と取られるため、女性移住家事労働者にとってしばしば労働的・感情的負担になる。そしてそれは、残業を受け入れたり、休日返上で仕事をしたり、長い間不満を胸の内にとめておいたり、労働条件が悪くても他の仕事を探さない、といった形で返される。家事労働者たちは「好意」は何らかの形で返さなければならぬことを知っている。それは見えない鎖となって彼女たちを身体的にも感情的にも縛り付けるのである。

「(仕事は) とてもきつい。外に4つの建物がある。一つは大きなバンガローで、セニョーラがそこで集まりを開くときに昼食や夕食に使う(会議用の3x2メートルくらいのテーブルを指して) これくらいのテーブルが一つある。その他にもっと小さい8人掛けの(テーブル)があって、それで間に合わない場合は、別の場所に行く。それと来客用のトイレともう一つ畑の裏にあるトイレ。それを全て私が掃除する。仕事は山ほどある。(セニョールとセニョーラが)「カティ、今日は外に夕食を食べに行くから」と言って夜外出するときもあるけれど、彼らが7時に出かけて夜中の2時から3時に帰ってきても、私は翌日8時には仕事を始めなければならない。職場にいないなければならない。」

移住女性がケアをする人々に対して持つ感情は、感謝や忠誠心だけでなく好感や強い愛情といったものも含む。雇用主の子供と家事労働者の間に構築される強い絆についてはよく知られているが、移住家事労働者は、自分の家族と一緒にいられない場合、物理的により近くにいる人間に愛情を注ぐ、というものがある。

「(雇用主の娘と)一緒に過ごす。彼女は私に対してとても愛情豊かで、私の娘を思い出させる。私は自分の娘に注ぐべき愛情をこの娘に注いでいる。「あなたは私を絶対に見捨てない」と時々その子は私に言う。私が彼女に「いつかは出て行く」というと、大泣きする。私に出て行って欲しくないと言う。彼女に「ここでは私は何者



でもない」と言うと、「違う、あなたは家族も同然、私のお姉さんみたいなもの」と言ってくる。でも、それとこれは別で、そんなに愛着を持ってはいけなないとわかっている。だって、明日には出て行くかもしれないのだから。」

女性移住家事労働者の仕事が老人や病人の介護である場合、このような愛情は子供だけではなく、大人にも向けられる。無防備な人間に対する彼女たちの愛情は、家事労働者なしでは自分たちで父親や母親にどう接していいかわからない人々の感謝の気持ちや良い待遇でもって強められる。家事労働者の中には、自分の家族に会いに行くのを犠牲にしてまでも、介護をする人やその家族の期待や愛情に応じる義務を感じる者もいる。厳しい雇用主と彼女に対し悪意を持つ同僚と仕事をしなければならなかったグアテマラ出身女性は、次のように述べている。

「今の職場では家族のように扱ってくれる。ここでは勤務時間は午前7時から午後3時までで、その時間には全ての仕事が終わっているようにする。もう少し長引く時もある。二人の老人の介護もするから、彼らとより多くの時間を過ごすようにすると、3時半になる時もある。でも、その時間にはセニョーラのところに行かなければならない。(中略)1日や数時間の外出許可を出すことに対してすらい顔をしないのに、子供たちに会いに行くために1週間の休みを下さいなど言えない、許可してくれるとは思えない。子供たちや母は私に会いたいと言うけど。7月に行くことを夢見ていたけれど、昨日いつ行けるか分からない、と彼らに言わねばならなかった。」

このような他者の期待に応える義務は、出身地に残してきた自分の家族に対してだけでなく、ケアをする人の家族に対しても感じられる。移民の目的は子供たちにより良い生活をさせるためである。もし、移住女性たちが職を失えば、その家族は餓死にするほかない。家事労働者を食事も睡眠もとらないロボットとして見なす雇用主の元で働くホンジュラス出身女性は、同じ職場で働き続ける理由を次のように説明している。

「もちろん、私には義務があるから。私には私を頼る3人の子供と母がいる。送金が途絶えた日には、彼らはどうやって食べていけばいい？今よりひどい状況になる。私が送金をしない日が来たら、家賃を払えず、家から追い出される。つまり、私にはどうにかする義務がある。送金を絶やすわけにはいかない、だって(家族が)追い

出されるから。」

別のより良い条件の仕事を見つげられる保証がない場合、この稼ぎ手としての義務からも現在の仕事を辞め新しい職場を探すのがためらわれる。それゆえ、女性移住家事労働者たちはしばしば、劣悪な労働条件にあっても、それに耐えることを選択するのである。

## 5 終わりに

メキシコ北東部、より正確に言うとモンテレイメトロポリタン地区は、中米移住女性にとって移動と労働において特殊なコンテクストを提示している。そこは現在、メキシコの南部国境地帯とは異なる労働機会がある新しい移動の目的地となってきた。彼女たちの出身地と違い、ここでは賃金家事労働を行うことにより、家族を養うことができる。

グローバリゼーションは世界の人口分布を変化させると同時に、生産・再生産労働の再編成を引き起こしてきた。しかしながら、その過程において、経済格差とジェンダー格差は手つかずのままである。自国の政府が家族を維持する手段を提供できない国に属する中米女性たちは、愛する家族を残し、日々の糧を得るために自国を後にする。しかしながら、受け入れ国が提供する労働市場では、ジェンダーに基づく職種分割が存続しており、彼女たちが就ける職は主に、Anderson (1999) の言葉を借りれば「汚い仕事 (dirty work)」に属する家事・介護サービス部門で、女性の仕事と見なされるがゆえに評価も低く賃金も安い。中米移住女性のこの労働市場への参加は、現在のグローバルスケールにわたって繰り広げられる性別役割分業の結果と言える。

中米移住女性によって行われる賃金家事労働の特殊性は、「家庭」という親密空間において生産される相互行為と対人関係の濃密さにある。この空間では、ジェンダー、階級、国籍、移民ステータスの要素を含む複雑な権力のダイナミクスが構築される。モンテレイの仕事文化は、中間層と上層階級が、移住女性によって提供される家事労働力をできるだけ搾取することを鼓舞してきた。こうした非人間的扱いは雇用主と労働者の衝突の焦点となる。しかしながら、この仕事に特徴付けられる親密性ゆえに、労働者側は、雇用主に対して不満や苦情を表すのをためらいがちになる。その上、雇用主の子供であれ両親であれ、自分の家族を思い出させる者に対して感じる強い愛情は、労働条件につい

で交渉する際、ポジティブ・ネガティブ両方に作用する。また、出身地に残してきた家族に対する経済的義務から、女性移住家事労働者は、たとえ耐えがたくとも、現状に甘んずることを余儀なくされる。中米移住女性のケースにおいては、国籍と移民ステータスが彼女たちをより脆弱な位置に配置し、権利、義務、「好意」の間の区別をより一層複雑にしている。

モンテレイメトロポリタン地区で家事労働者として働く中米移住女性の経験を通して理解できるのは、たとえ彼女たちが、国内移住女性とジェンダーによって明確に分割された家事サービスという労働市場を共有しているとしても、彼女たちの国籍と移民ステータスが「家庭」というようなマイクロな社会空間における対人関係のダイナミクスをより複雑にしている、ということである。彼女たちが雇用主との権力関係を上手く操作しながら交渉できる余地は、外国人移民でありしばしば非正規滞在者であるという彼女たちの脆弱な条件を考慮すると、他の家事労働者たちのそれと比較して、ずっと狭いと言えるのではないか。

#### 注

- 1) Jelín, Elizabeth (1977) "Migration and labor force participation of Latin American women: the domestic servants in the cities", *Signs*, vol. 3, no. 1, Autumn, pp. 129-141.
- 2) Goldsmith, Mary (1990) "El servicio doméstico y la migración femenina", Elia Ramírez Bautista & Hilda R. Dávila Ibáñez, *Trabajo femenino y crisis en México. Tendencia y transformaciones actuales*, México, Universidad Autónoma Metropolitana, pp. 257-275.
- 3) Howell, Jayne (1999) "Las sirvientas domésticas de Oaxaca: vínculos conflictivos, vínculos afectuosos", *Alteridades*, vol. 9, no. 17, pp. 23-28.
- 4) Goldsmith, Mary (1990) "El servicio doméstico y la migración femenina", Elia Ramírez Bautista & Hilda R. Dávila Ibáñez, *Trabajo femenino y crisis en México. Tendencia y transformaciones actuales*, México, Universidad Autónoma Metropolitana, pp. 257-275; Durin, Séverine (coord.) (2009) *En Monterrey hay trabajo para mujeres*, Monterrey, N.L., Comité Regional Norte de Cooperación con UNESCO / CIESAS / CDI; Howell, Jayne (1999) "Las sirvientas domésticas de Oaxaca: vínculos conflictivos, vínculos afectuosos", *Alteridades*, vol. 9, no. 17, pp. 23-28.
- 5) Hondagneu-Sotelo, Pierrett (2001) *Doméstica: Immigrant Workers Cleaning and Caring in the Shadows of Affluence*, Berkeley-Los Angeles-London, University of California Press.
- 6) Parreñas, Rhacel Salazar (2001) *Servants of Globalization. Women, Migration and Domestic Work*, Stanford, California Stanford University Press; Sassen, Saskia (2000)

- “Women’s burden: Countergeographies of globalization and the feminization of survival”, *Journal of International Affairs*, april, vol. 53, no. 2, pp. 503-524; Sassen, Saskia (2002) “Global cities and survival circuits”, Barbara Ehrenreich y Arlie Russell Hochschild (eds.), *Global Woman. Nannies, Maids, and Sex Workers in the New Economy*, Nueva York, Metropolitan Books/Henry Holt and Company, pp. 254-280.
- 7) Torns (1995, 1999) と Lutz (1997)。Parella Rubio, Sònia (2000) “El trasvase de desigualdades de clase y etnia entre mujeres”, *Papers*, no. 60, pp. 275-289 の引用。
- 8) Castelló Santamaría, Laia (2009) “La mercantilización y mundialización del trabajo reproductivo. El caso español”, *Revista de Economía Crítica*, no. 7, primer semestre, pp. 74-94; Oso, Laura (1998) *La migración femenina de mujeres jefas de hogar*, Madrid, Ministerio de Trabajo y Asuntos Sociales, Instituto de la Mujer; Parella Rubio, Sònia (2003) *Mujer, inmigrante y trabajadora: la triple discriminación*, Barcelona, Antropos.
- 9) Castelló Santamaría, Laia (2009) “La mercantilización y mundialización del trabajo reproductivo. El caso español”, *Revista de Economía Crítica*, no. 7, primer semestre, pp. 74-94.
- 10) 同上。
- 11) Anderson, Bridget (1999) “Overseas domestic workers in the European Union: invisible women”, Janet H. Momsen (ed.), *Gender, migration and domestic service*, London, Routledge, pp. 117-133; Castelló Santamaría, Laia (2009) “La mercantilización y mundialización del trabajo reproductivo. El caso español”, *Revista de Economía Crítica*, no. 7, primer semestre, pp. 74-94; Escrivá, Ángeles (1997) “Control, composition and character of new migration to south-west Europe: the case of Peruvian women in Barcelona”, *New community. The Journal of the European Research Centre on Migration and Ethnic Relations*, vol. 23, no. 7, pp. 43-57; Gutiérrez Rodríguez, Encarnación (2007) “The ‘hidden side’ of the new economy: On transnational migration, domestic work, and un precedented intimacy”, *Frontiers. A Journal of Women Studies*, no. 3, vol. 28, pp. 60-83; Hondagneu-Sotelo, Pierrett (2001) *Doméstica: Immigrant Workers Cleaning and Caring in the Shadows of Affluence*, Berkeley-Los Angeles-London, University of California Press; Parella Rubio, Sònia (2000) “El trasvase de desigualdades de clase y etnia entre mujeres”, *Papers*, no. 60, pp. 275-289; Parella Rubio, Sònia (2003) *Mujer, inmigrante y trabajadora: la triple discriminación*, Barcelona, Antropos; Parreñas, Rhacel Salazar (2001) *Servants of Globalization. Women, Migration and Domestic Work*, Stanford, California Stanford University Press; Oso, Laura (1998) *La migración femenina de mujeres jefas de hogar*, Madrid, Ministerio de Trabajo y Asuntos Sociales, Instituto de la Mujer; Spitzer, Denise, Anne Neufeld, Margaret Harrison, Karen Hughes y Miriam Stewart (2003) “Caregiving in Transnational Context: ‘My Wings Have Been Cut: Where Can I Fly?’”, *Gender and Society*, no. 2, vol.

- 17, pp. 267-286; Tacoli, Cecilia (1999) "International migration and the restructuring of gender asymmetries: continuity and change among Filipino labor migrants in Rome", *International Migration Review*, no. 3, vol. 33, pp. 658-682.
- 12) Constable, Nicole (1997) *Maid to Order in Hong Kong: Stories of Filipina Workers*, Ithaca: Cornell University Press; Constable, Nicole (2002) "Filipina workers in Hong Kong homes: household roles and relations", Barbara Ehrenreich & Arlie Russell Hochschild (eds.), *Global Woman. Nannies, Maids, and Sex Workers in the New Economy*, New York: Metropolitan Books/Henry Holt and Company, pp. 115-141; Huang, Shirlena & Brenda S. A. Yeoh (1996) "Ties that bind: state polity and migrant female domestic helpers in Singapore", *Geoforum*, no. 4, vol. 27, pp. 479-493; Yeoh, Brenda S. A. & Shirlena Huang (1998) "Negotiating public space: Strategies and Styles of migrant female domestic workers in Singapore", *Urban Studies*, vol. 35, no. 2, pp. 583-602; Yeoh, Brenda S. A. & Shirlena Huang (1999) "Spaces at the margins: migrant domestic workers and the development of civil society in Singapore", *Environment and Planning A*, vol. 31, no. 7, July, pp. 1149-1167.
- 13) Akalin, Ayse (2007) "Hired as a caregiver, demanded as a housewife: Becoming a migrant domestic worker in Turkey", *European Journal of Women's Studies*, vol. 14, no. 3, pp. 209-225; Rajman, Rebeca, Silvina Schammah-Gesser and Adriana Kemp (2003) "International migration, domestic work, and care work: Undocumented Latina migrants in Israel", *Gender and Society*, vol. 17, no. 5, pp. 727-749.
- 14) Blanco Abellán, Blanca (2014) "Migración femenina, 'trabajo muerto' y nichos sociolaborales: empleadas domésticas guatemaltecas en Tapachula, Chiapas", Carolina Rivera Farfán (coord.), *Trabajo, empleo y vida cotidiana de centroamericanos en la frontera suroccidental de México*, México, CIESAS, pp. 107-136.
- 15) Durin, Séverine (coord.) (2009) *En Monterrey hay trabajo para mujeres*, Monterrey, N.L., Comité Regional Norte de Cooperación con UNESCO / CIESAS / CDI.
- 16) 同上, 34 頁。
- 17) Fernández Casanueva, Carmen Guadalupe (2011) "Las palmeras de Tapachula son como las de La Ceiba. Inmigrantes hondureñas reflexionando sobre su proceso de asentamiento en la ciudad de Tapachula, Chiapas", ponencia presentada en el *Seminario: Migrantes entre fronteras: escenarios del siglo XXI*, el 21 de octubre de 2011, Monterrey, N.L.
- 18) Howell (1999) は、オアハカでの研究で、学費を稼ぐために若い時分、自ら家事労働者として働いたことのある雇用主は、家事労働者が置かれている状況をより理解し、彼女らに対してより理解を示すことを示唆している。
- 19) Torns (1996), Parella (2000) "El trasvase de desigualdades de clase y etnia entre mujeres", *Papers*, no. 60, pp. 275-289 の引用による。276 頁。



- 20) Sassen, Saskia (2002) "Global cities and survival circuits", Barbara Ehrenreich y Arlie Russell Hochschild (eds.), *Global Woman. Nannies, Maids, and Sex Workers in the New Economy*, Nueva York, Metropolitan Books/Henry Holt and Company, pp. 254-280, 255 頁。
- 21) Parreñas, Rhacel Salazar (2001) *Servants of Globalization. Women, Migration and Domestic Work*, Stanford, California, Stanford University Press.
- 22) 同上。
- 23) Hochschild と Machung (1989) によれば、男性稼ぎ手のイメージに反するため、男性の収入が妻より少ない場合、夫の家事への参加がより少なくなる。Parreñas, Rhacel Salazar (2001) *Servants of Globalization. Women, Migration and Domestic Work*, Stanford, California, Stanford University Press による引用。しかしながら、同じ仕事をして女性も女性の給料が男性よりも低いため、男性より稼ぎの多い女性の数は限定されていることを考慮する必要がある。本質的問題は、女性が収入を得ても男性が家事に参加したがることにある。
- 24) Gutiérrez Rodríguez, Encarnación (2007) "The 'hidden side' of the new economy: On transnational migration, domestic work, and an unprecedented intimacy", *Frontiers. A Journal of Women Studies*, no. 3, vol. 28, pp. 60-83.
- 25) Glenn (1992)。Parreñas, Rhacel Salazar (2001) *Servants of Globalization. Women, Migration and Domestic Work*, Stanford, California, Stanford University Press による引用。
- 26) Anderson, Bridget (1999) "Overseas domestic workers in the European Union: invisible women", Janet H. Momsen (ed.), *Gender, migration and domestic service*, London, Routledge, pp. 117-133.
- 27) Parella Rubio, Sònia (2000) "El trasvase de desigualdades de clase y etnia entre mujeres", *Papers*, no. 60, pp. 275-289.
- 28) Goldsmith, Mary (2007) "De sirvientas a empleadas del hogar. La cara cambiante del servicio doméstico en México", Marta Lamas, *Miradas feministas sobre las mexicanas del siglo XX*, México: Fondo de Cultura y Económica, pp. 279-311; Kuznesof, Elizabeth (1993) "Historia del servicio doméstico en la América hispana (1492-1980)", Elsa M. Chaney & Mary García Castro (eds.), *Muchacha / cachita / criada / empleada / empregadinha / sirvienta / y ... más nada*, Caracas, Editorial Nueva Sociedad, pp. 25-40.
- 29) Goldsmith, Mary (2007) "De sirvientas a empleadas del hogar. La cara cambiante del servicio doméstico en México", Marta Lamas, *Miradas feministas sobre las mexicanas del siglo XX*, México, Fondo de Cultura y Económica, pp. 279-311.
- 30) グアテマラとの国境地帯は、常にグアテマラ人の季節労働者や定住者の労働空間であり避難所であったことを忘れてはならない。

- 31) Jelín, Elizabeth (1977) "Migration and labor force participation of Latin American women: the domestic servants in the cities", *Signs*, vol. 3, no. 1, Autumn, pp. 129-141.
- 32) Chavarría Montemayor, Laura (2008) "Cómo sentirse seguras en Monterrey. Redes migratorias femeninas y empleo doméstico puertas adentro", Séverine Durin, *Entre luces y sombras. Miradas sobre los indígenas en el área metropolitana de Monterrey*, México: Centro de Investigaciones y Estudios Superiores en Antropología Social, pp. 173-203.
- 33) Hochschild, Arlie Russell (2000) "Global care chains and emotional surplus value", Hutton, Will & Anthony Giddens (eds.), *On The Edge: Living with Global Capitalism*, London, Jonathan Cape.
- 34) Parreñas, Rhacel Salazar (2001) *Servants of Globalization. Women, Migration and Domestic Work*, Stanford, California, Stanford University Press.
- 35) Gutiérrez Rodríguez, Encarnación (2007) "The 'hidden side' of the new economy: On transnational migration, domestic work, and un precedented intimacy", *Frontiers. A Journal of Women Studies*, no. 3, vol. 28, pp. 60-83.
- 36) Anderson, Bridget (1999) "Overseas domestic workers in the European Union: invisible women", Janet H. Momsen (ed.), *Gender, migration and domestic service*, London, Routledge, pp. 117-133.
- 37) Parreñas, Rhacel Salazar (2001) *Servants of Globalization. Women, Migration and Domestic Work*, Stanford, California, Stanford University Press.
- 38) Tacoli, Cecilia (1999) "International migration and the restructuring of gender asymmetries: continuity and change among Filipino labor migrants in Rome", *International Migration Review*, no. 3, vol. 33, pp. 658-682.
- 39) Escrivá, Ángeles (1997) "Control, composition and character of new migration to south-west Europe: the case of Peruvian women in Barcelona", *New community. The Journal of the European Research Centre on Migration and Ethnic Relations*, vol. 23, no. 7, pp. 43-57.
- 40) Huang, Shirlena & Brenda S. A. Yeoh (1996) "Ties that bind: state polity and migrant female domestic helpers in Singapore", *Geoforum*, no. 4, vol. 27, pp. 479-493.
- 41) Pla (2004)。Castelló Santamaría, Laia (2009) "La mercantilización y mundialización del trabajo reproductivo. El caso español", *Revista de Economía Crítica*, no. 7, primer semestre, pp. 74-94 の引用による。
- 42) Hondagneu-Sotelo, Pierrett (2001) *Doméstica: Immigrant Workers Cleaning and Caring in the Shadows of Affluence*, Berkeley-Los Angeles-London, University of California Press.
- 43) Ehrenreich, Barbara (2002) "Maid to order", Barbara Ehrenreich & Arlie Russell Hochschild (eds.), *Global Woman. Nannies, Maids, and Sex Workers in the New*

- Economy*, New York, Metropolitan Books/Henry Holt and Company, pp. 85-103.
- 44) Huang, Shirlena & Brenda S. A. Yeoh (1996) "Ties that bind: state polity and migrant female domestic helpers in Singapore", *Geoforum*, no. 4, vol. 27, pp. 479-493.
- 45) Spitzer, Denise, Anne Neufeld, Margaret Harrison, Karen Hughes y Miriam Stewart (2003) "Caregiving in Transnational Context: 'My Wings Have Been Cut: Where Can I Fly?'", *Gender and Society*, no. 2, vol. 17, pp. 267-286.
- 46) Constable, Nicole (1997) *Maid to Order in Hong Kong: Stories of Filipina Workers*, Iitaca: Cornell University Press; Hondagneu-Sotelo, Pierrett (2001) *Doméstica: Immigrant Workers Cleaning and Caring in the Shadows of Affluence*, Berkeley-Los Angeles-London, University of California Press.
- 47) Constable, Nicole (1997) *Maid to Order in Hong Kong: Stories of Filipina Workers*, Iitaca: Cornell University Press.
- 48) Hondagneu-Sotelo, Pierrett (2001) *Doméstica: Immigrant Workers Cleaning and Caring in the Shadows of Affluence*, Berkeley-Los Angeles-London, University of California Press.
- 49) Mahler, Sara J. y Patricia P. Pessar (2001) "Gendered geographies of power: analyzing gender across transnational spaces", *Identities*, no. 4, vol. 7, pp. 441-459; Ehrenreich, Barbara (2002) "Maid to order", Barbara Ehrenreich & Arlie Russell Hochschild (eds.), *Global Woman. Nannies, Maids, and Sex Workers in the New Economy*, New York, Metropolitan Books/Henry Holt and Company, pp. 85-103.
- 50) Huang, Shirlena & Brenda S. A. Yeoh (1996) "Ties that bind: state polity and migrant female domestic helpers in Singapore", *Geoforum*, no. 4, vol. 27, pp. 479-493; Constable, Nicole (1997) *Maid to Order in Hong Kong: Stories of Filipina Workers*, Iitaca, Cornell University Press.
- 51) Constable, Nicole (1997) *Maid to Order in Hong Kong: Stories of Filipina Workers*, Iitaca, Cornell University Press; Howell, Jayne (1999), "Las sirvientas domésticas de Oaxaca: vínculos conflictivos, vínculos afectuosos", *Alteridades*, vol. 9, no. 17, pp. 23-28.
- 52) Arzaluz Solano, Socorro (2007) "Introducción", Socorro Arzaluz Solano (coord.), *La migración a Estados Unidos y la frontera noreste de México*, Tijuana, Baja California, El Colegio de la Frontera Norte, pp. 5-26.
- 53) López Recinos, Vladimir (2003) "La violación de los derechos humanos de los migrantes hondureños en tránsito por México", ponencia presentada en *Primer coloquio internacional. Migración y desarrollo: transnacionalismo y nuevas perspectivas de integración*, 23, 24 y 25 de octubre de 2003, Zacatecas, México; Puerta, Ricardo. (2005) "6. Entendiendo y explicando la migración hondureña a Estados Unidos", *Revista Población y Desarrollo. Argonautas y Caminantes 2004*, Tegucigalpa, Universidad Nacional Autónoma de Honduras-Posgrado Latinoamericano en Trabajo Social, pp. 65-

84.

- 54) Hamilton, Nora y Norma Stoltz Chinchilla (1991) "Central American migration: A Framework for analysis", *Latin American Research Review*, no. 1, vol. 26, pp. 75-110.
- 55) Gutiérrez Rodríguez, Encarnación (2007) "The 'hidden side' of the new economy: On transnational migration, domestic work, and un precedented intimacy", *Frontiers. A Journal of Women Studies*, no. 3, vol. 28, pp. 60-83.
- 56) 1890年から1900年にかけてアメリカ合衆国への中米合法移民は500人から8,000人に増大した。1920年には17,000に達したが、その後減少し、1930年には6,000になった。しかし、1940年代には21,000人に増大し、1951年から1960年の間に倍増した。この傾向は現在も維持されている。実際、ほぼ40年前から、中米諸国はカリブや南米諸国よりもアメリカ合衆国へ多くの移民を送り出している。Puerta, Ricardo (2005) "6. Entendiendo y explicando la migración hondureña a Estados Unidos", *Revista Población y Desarrollo. Argonautas y Caminantes 2004*, Tegucigalpa, Universidad Nacional Autónoma de Honduras-Posgrado Latinoamericano en Trabajo Social, pp. 65-84.
- 57) 同上。
- 58) Castillo, Manuel Ángel(1998) "La política de inmigración en México: un breve recuento", Manuel ÁngelCastillo, Alfredo Lattes y Jorge Santibáñez (coords.), *Migración y fronteras*, México, El Colegio de la Frontera Norte/Asociación Latinoamericana de Sociología/El Colegio de México, pp. 425-451.
- 59) アメリカ合衆国は、自然災害または武力紛争に苦しむ国出身の非合法移民に対し、一時保護ステータス (Temporary Protection Status, 略して TPS) 政策を開始した。1998年12月30日以前にアメリカ合衆国に入国したホンジュラス、エルサルバドル、ニカラグア人はこのプログラムの対象となり、合法の期限付き滞在許可を取得できる。この保護を受けたものは、ホンジュラス人で70,000人から75,000人、ニカラグア人では3,000人、そしてエルサルバドル人においては230,000人に及ぶ。エルサルバドル人に対するTPSは2016年の9月9日まで、ホンジュラス人とニカラグア人に対しては2016年の7月5日まで延長されている。数字だけ見ると成功しているように見えるが、中米移民の間で、このプログラムに対する多大な不信感が存在することも否めない。データを全て提供したことで、追跡され強制送還されるのではないかとこの恐怖心は、彼らの中に以前存在している。それゆえ、多くの人が登録していない。
- その一方で、ホンジュラス人に対するビザの数は増えていない。ハリケーンミッチの前年の1997年には、テグシガルバのアメリカ大使館に3,510件のビザの申請があり、2,536件、すなわち72%が許可された。しかし、1998年の12月にはより多くの申請(5,220件)があったにもかかわらず、許可された数は前年より少なく、全体の43%に値する2,220件だけであった。
- 60) Instituto Nacional de Migración (2006) *Boletín de estadísticas migratorias*, México, Instituto Nacional de Migración, 10頁.

- 61) Instituto Nacional de Migración (2010), *Boletín de estadísticas migratorias*, México, Instituto Nacional de Migración, 169 頁.
- 62) 鉄道ルートの一つは北東地域を通る。サン・ルイス・ポトシ州からコアウイラ州へ向かい、その後、モンテレイ (ヌエボレオン州)、ピエドラスネグラス (コアウイラ州)、ラレードとレイノサ (タマウリパス州) の主に4つのルートに分岐される。
- 63) López Recinos, Vladimir (2008) “Una visión pasada y presente de las migraciones internacionales en Honduras”, Socorro Arzaluz Solano (coord.), *La migración a Estados Unidos y la frontera noreste de México*, Tijuana, Baja California, El Colegio de la Frontera Norte, pp. 209-245.
- 64) 同上。
- 65) Monzón, Ana Silvia (2006) *Las viajeras invisibles: mujeres migrantes en la región centroamericana y el sur de México*, Guatemala: PCS / CAMEX.
- 66) メキシコの「移民シェルター」は大きく二つに分類される。一つが「移民の家 (casa del migrante)」で、もう一つが「移民の避難所 (albergue para los migrantes)」である。両者とも大抵宗教団体 (カトリック) 主導の運営で、寄付とボランティア活動で成り立っているところが多い。前者は期限付きで日中の滞在を許可していない場合が多く、後者は滞在期限を設けず外出を禁止しているところが多い。モンテレイの移民シェルターは前者に属する。
- 67) Chavarría Montemayor, Laura (2008) “Cómo sentirse seguras en Monterrey. Redes migratorias femeninas y empleo doméstico puertas adentro”, Séverine Durin, *Entre luces y sombras. Miradas sobre los indígenas en el área metropolitana de Monterrey*, México, Centro de Investigaciones y Estudios Superiores en Antropología Social, pp. 173-203; Durin, Séverine (coord.) (2009) *En Monterrey hay trabajo para mujeres*. Monterrey, N.L., Comité Regional Norte de Cooperación con UNESCO / CIESAS / CDI.
- 68) これは先住民の若い女性にとって、労働市場における多様なオプションがあるという意味ではない。というよりは、家族や友人によって構築されたネットワークは、前もって開拓された「労働の巣」の存在のおかげで、他の職へのアクセスを制限してしまう。
- 69) 「住み込み」と「通い」の二つの労働形態は、家事労働者のライフサイクルに呼応する。雇用主が家庭の様々な仕事をこなすために必要とする柔軟な時間体制に応えるため、独身女性が「住み込み」で働くのに対し、既婚家事労働者は自分の再生産労働も行えるよう「通い」の仕事を好んで探す。Durin, Séverine (coord.) (2009) *En Monterrey hay trabajo para mujeres*. Monterrey, N.L., Comité Regional Norte de Cooperación con UNESCO / CIESAS / CDI.
- 70) この額は、メキシコの他の地域と比較しても高い方である。モンテレイメトロポリタン地区に移住する若い先住民女性たちは、給料が良いのでモンテレイに行きたいと常に思っていた、と述べている。Chavarría Montemayor, Laura (2008) “Cómo sentirse seguras en Monterrey. Redes migratorias femeninas y empleo doméstico puertas adentro”,

Séverine Durin, *Entre luces y sombras. Miradas sobre los indígenas en el área metropolitana de Monterrey*, México, Centro de Investigaciones y Estudios Superiores en Antropología Social, pp. 173-203.

- 71) Constable, Nicole (2002) "Filipina workers in Hong Kong homes: household roles and relations", Barbara Ehrenreich & Arlie Russell Hochschild (eds.), *Global Woman. Nannies, Maids, and Sex Workers in the New Economy*, New York: Metropolitan Books/Henry Holt and Company, pp. 115-141; Ehrenreich, Barbara (2002) "Maid to order", Barbara Ehrenreich & Arlie Russell Hochschild (eds.), *Global Woman. Nannies, Maids, and Sex Workers in the New Economy*, New York: Metropolitan Books/Henry Holt and Company, pp. 85-103; Hondagneu-Sotelo, Pierrett (2001) *Doméstica: Immigrant Workers Cleaning and Caring in the Shadows of Affluence*, Berkeley-Los Angeles-London, University of California Press; Howell, Jayne (1999) "Las sirvientas domésticas de Oaxaca: vínculos conflictivos, vínculos afectuosos", *Alteridades*, vol. 9, no. 17, pp. 23-28; Yeoh, Brenda S. A. & Shirlena Huang (1999) "Spaces at the margins: migrant domestic workers and the development of civil society in Singapore", *Environment and Planning A*, vol. 31, no. 7, July, pp. 1149-1167.



